



山

95 × 70 × 45cm 密蝋・ミクストメディア(2016年制作)

Akiyuki Tsuchiya

2017.3/26 (sun) ~ 2017.5/31 (wed)

土屋 明之

2017.3/26(日)～2017.5/31(水)

観覧申込みは電話090-5853-3766まで。
入場は無料

関係性の中で

高橋 秀治
岐阜県現代陶芸
美術館・館長

大学時代の石彫から制作活動をスタートさせた土屋は、学校教育に携わりながらたゆまず制作を続け、この地域に根ざして発表を続けてきた。過去には京都市の「芸術祭典 京を創る」の大賞に輝いたこともあったが、基本的にはこの地域での制作、発表を中心に据えてきている。

その作風は、自然や環境との交感の中から導き出された形態を表現したものと言って良いだろう。初期の石彫では自らの発する抽象形態を追求していたが、いつしか作品そのものの形態の追求から、環境のなかでの関係性に力点が置かれるようになった。

時にインスタレーション的手法を使うこともあるが、力技で形を決めていくのではなく、環境を含めた素材と対話しながら、自然との関係性に視点を求めた良い意味での、力の抜けた飄逸(ひょういつ)とも形容できる作品世界を展開するようになってきた。特に近年は、植物とその種子にモチーフを求め、イメージの種を見つけている。

今回の発表でもその方向性は続けられている。それらは単に植物や種子の再現描写ではない。それは自然を含めた環境からインスパイアされた自分を表現しているものに違いない。環境と一言で片づけてしまうのはいささか乱暴で、もう少し掘り下げると、彼の生活のなかで育んできた人々との交流や、関係性にもその源流があるように思われる。つまり造形的な試行錯誤にとどまらず、発想のもとになる思考に影響を与えているのが、特別支援校勤務を中心とした学校教育との関わりがあると私は考えている。もちろんことさらにそれを強調することは誤解を与えかねないが、彼に限らず作家としての思考というのは、表面的な造形だけでなく、生活全般から受ける刺激を、自らのなかで熟成させて表現に結びつけることはごく自然のことであろう。

支援を必要とする子どもたちとの接点は、必ずしも何かを与えるだけの一方通行ではない。効率一辺倒が価値基準となるような現代社会が、平然と弱者に牙をむくようになってきた昨今、それぞれの人間の中にある生命感や尊厳を受け取ってきたに違いない。あるいは隠された能力に驚くこともあっただろう。そうしたのも彼の造形表現の根底に流れていると感じられるし、無機質な形態より有機的なカタチを、鋭さより柔らかさを、冷たさより暖かさを選び取ってきたのは、彼の体質と言っても良いだろう。

今回も主に使っている蜜蝋という素材は、それ自体が有機的なオーラを有しており、作者の求めるベクトルを強化することに役立っている。また緑青や赤さび色も時間の経過を感じさせ、そこにわずかに工芸的な香りや手触りといったものをまわしている。これらが相まって彼の作品は、一見重厚な雰囲気とは趣を異にしながら、人間と自然の関係性といった大きな問題を意識させる力を持っている。



土屋明之

【略歴】

- 1954年 岐阜県多治見市に生まれる
- 1977年 大垣市野外彫刻展 ※～1984 (大垣市)
- 1980年 岐阜大学教育学部美術工芸学科彫刻研究生修了
- 1983年 個展 (ギャラリー・絵美詩)
- 1985年 岐阜県立関養護学校創立20周年記念『はぐむ』制作 (関市)
- 1986年 第1回岐阜現代彫刻シンポジウム (岐阜市畜産センター)
- 戦後生れの作家たち<立体部門> (岐阜県美術館)
- 個展「土屋明之石彫展」 (岐南町図書館中庭)
- 1987年 音と形の5人『音と形の融合』展 (岐阜県美術館多目的ホール)
- '87朝日現代クラフト展奨励賞受賞 (大阪)
- 1988年 池田野外彫刻展 ※～2005出品 (岐阜県立池田高等学校中庭)
- 1989年 個展「四季レリーフ展」 (岐阜市「後藤家」)
- 1990年 6作家による『後藤家ねね』オブジェ制作 (岐阜市)
- 「アート・フロム・エコ・ワールド」彫刻展 (岐阜県美術館・白川町クオーレふれあいの里)
- 1992年 芸術祭展・京-「京を創る」大賞受賞 (京都市)
- 1993年 個展「原風景展」 (岐阜市 ギャラリーキャプション)
- 個展 道の駅オープン記念「原風景ひだ清見」インスタレーション (清見村ふるさと公園バスケル清見)
- 平成4年度県芸術文化活動等特別奨励賞受賞 (岐阜県)
- 1996年 加藤洋二・土屋明之「このころのかたち祈りの姿」 (岐阜市ギャラリーキャプション)
- 1997年 「歌となる言葉とカタチ」展 ※～2015出品 (郡上市古今伝授の里フィールドミュージアム)
- 2000年 岐阜県芸術文化会議「芸術展」※～2012出品 (岐阜市民会館)
- 2001年 個展「このころの片隅・断片」 (ギャラリー・樺)
- 2003年 個展 (岐阜市ギャラリーなうふ)
- 2004年 岐阜県芸術文化奨励賞 (岐阜県)
- 2006年 個展「太古の原風景」 (岐阜市アクティブG県民ギャラリー)
- 2015年 個展「空から種が」 (郡上市古今伝授の里フィールドミュージアム)
- 2016年 第44回「雑魚展」出品 (岐阜県美術館)
- 現在 中部学院大学短期大学部幼児教育科特任教授、岐阜県芸術文化会議会長、公益財団法人岐阜県教育文化財団障がい者文化芸術アドバイザー、TA工房主宰



種



芽がでる

Contemporary Art
極小美術館アポイントをとってお越し下さい
090-5853-3766

〒503-2418

岐阜県池田町草深大谷939-10

〈アクセス〉

- JR大垣駅より養老鉄道で20分、美濃本郷駅下車1.8kmケアハウス近く。
- タクシー利用の場合は養老鉄道池野駅下車2.8km、約10分。
- 車の場合、大垣西ICより約15分。R417を北上し美濃本郷交差点左折1.0km。

http://www.geocities.jp/kyokushou_museo/